

# 教育のページ

## 高校生と意見交わす

### 真砂市長「田辺っ子訪問」

田辺市の真砂充敏市長が12月から、市内の高校で生徒と懇談する「田辺っ子訪問」を始めた。1校目の神島高校(文里2丁目)では、経営科学科3年生の課題研究「商品開発」の授業に参加し、梅のPRやまちづくりについて生徒と意見を交わした。

市政を身近に感じてもらうために、生徒がイベント販売やうと企画し、来年度までに計5校を訪れる予定。市内の中学校についてはすでに訪問している。

「商品開発」では、特産品で地域を盛り上げたいことを目指し、みやすいまち田辺」をテーマ

グループワークで生徒の意見を聞く真砂充敏市長(中央奥)＝田辺市文里2丁目



グループワークで生徒の意見を聞く真砂充敏市長(中央奥)

＝田辺市文里2丁目

に4班に分かれて話し合い、大判用紙に意見をまとめて発表した。真砂市長と市職員3人も各班に1人ずつ入り、グループワークに参加した。発表では、学校で週1回梅干しを食べる時間を「梅干し」を食べる時間を「梅干し」

「1粒が大きいように感じるので、食べやすいように加工する」や、「電車やバスなどの交通の便がよくなれば」

「駅前をもっとぎやかにしてほしい。若者が遊べる場所があればな」の意見が出た。

これを踏まえ、真砂市長は梅産業の展望や市の景観を刷新する取り組みなどについて説明。「田辺市の雰囲気が変わり、新しい街としてスタートする。その中で活躍する若者を育てよう」としている」と語り掛けた。

児玉詩音さん(17)は「市長の話聞くことが嬉しかったことだし、生徒の意見をちゃんと受け止めてくれてうれしかった」と笑顔を見せた。真砂市長は「授業に入らせてもらっていろいろな発見があった。若者らしい意見がたくさん出て、参考にできる意見については努力していかないといけない」と感じた」と話した。

14日には田辺工業高校(あけぼの)を訪れた。

## 谷坂さん(白浜)が優勝

### 中学生プログラミング

田辺・西牟婁

田辺市あけぼの、田辺工業高校でこのほど、第1回U-16プログラミングコンテスト和歌山大会実行委員会主催が開かれた。田辺・西牟婁の中学生が、作成したプログラム同士をゲームで戦わせる内容で、白浜3年の谷坂葉羽さんが優勝した。

プログラミング教育が盛んになることを見据え、部活などでプログラミングを勉強している中学生が活躍できる場を設けようとして開いた。コンテストはNPO「ITジ

ニア育成交流協会」が普及に努めており、全国各地で開かれている。実行委事務局の田辺工業高が近辺の中学校から参加者を募り、白浜、上富田、東陽の3中学校から18個人・チームが参加。生徒は7月に田辺工業高であった事前講習会を受けた後、同校の生徒や教員に教わったり、県の事業「さのくにICT教育」でエンジニアの指導を仰いだりして大会に臨んだ。

基盤目フィールド上の対戦



プログラミングコンテストで対戦する生徒(田辺市あけぼの)

型ゲームで、生徒がプログラム同士を戦わせ、トーナメントで順位を決めた。生徒

はプログラムの動きに「喜一憂し、試合終了後には互いに握手をして健闘をたたえ合った。

コンテストを担当した田辺工業高の阪本貴弘教諭(39)は「プログラミングを学んでいる子たちが互いに交流し、楽しめる場になったと感じる」と振り返った。来年度も続ける予定という。

優勝した谷坂さんは1月、東京都で「ITジュニア育成交流協会」からITジュニア賞を受ける。谷坂さん以外の入賞者は次の通り。

- 2位 長矢拓将(上富田3年)
3位 大川修人(東陽2年)
敢闘賞 山田真碧(白浜3年)